

2015 年度活動報告 交換授業：インテンシブ 5A（文法・読解）

牛窪 隆太（関西学院大学日本語教育センター）

高村 めぐみ（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

中級から中上級の学習者を対象としている。同レベル 2 クラス同時開講で、各クラス 6 名（計 12 名）である。1 週間に 2 コマ（90 分）で、教科書は『「大学生」になるための日本語 1』（堤・長谷川 2009）¹を使った。クラスの目標は、①様々な学問分野に関連する文章を読んで理解できるようになる、②読んだ文章について説明したり、意見を述べたりできるようになる、③中級の語彙・表現について、運用する力をつける、の 3 つである。「文法・読解」の科目名ではあるが、読解を中心に授業を展開した。また、文法に関しても既習済みのものが多いため、知識を増やすよりも運用能力をあげることを中心に授業を組み立てた。

2. 授業内容

全 27 回で、およそ 3 コマで一課のペースで進んだ。各コマの流れは、1 コマ目が①前課のクイズ（語彙、文法）②新しい課の語彙説明、②速読と選択問題の実施、2 コマ目が①表現・文法の説明と練習、3 コマ目が①内容理解確認のためのピア活動、②各段落の要点発表、③ディスカッション、である。授業内の活動は、なるべくピアワークを中心に、何度も教科書にあたるようなタスクを課した。

第 14 回目に第 1 課～5 課の範囲の中間試験を、第 27 回目に第 6 課～9 課の範囲の期末試験を行った。

3. 成果と今後の課題

学習者からのアンケートでは、5 段階中 5 点が 6 名、4 点が 5 名で、概ね高評価を得ることができた。読解の授業ではあるが、ピア活動を多く取り入れたことにより、会話のスキルも身に付いたとコメントをした学習者もいた。また何度も教科書を読ませるように工夫をしたことも、好評だったようである。但し、「もっと文法の勉強がしたい」「クイズの回数を増やしてほしい」という意見もあった。今回のように新出文法が少なく、使えることを目的としたクラスで、どのように学習者の満足度をあげるか、今後の課題である。

¹ 堤良一・長谷川哲子（2009）『「大学生」になるための日本語 1』ひつじ書房